

NDCJ 会長中川勲氏によって元チャンピオン 6 人による「今後の日本プロダンス界発展の為の方向性について」の会議が行われた。

日時：2015 年 9 月 14 日（月）12：00～14：00

出席者：鳥居弘忠、鳥居瑤子、桜本和夫、中川勲、石原久嗣、天野博文



#### 会議内容：

過去日本のダンス界に輝かしい戦績を残し、現在、プロフェッショナルダンス界をリードしている 6 人の元全日本チャンピオンが集い、今後の日本ダンス界発展の為の方向性、目的、それに伴う手段について話し合いがなされ、今後の日本ダンス界の動向を決定づける話し合いとなった。

現在日本ダンス界は、風営法から外れることが出来たにもかかわらず、ダンス界が低迷しているのは、日本を取り巻く経済環境の変化にも原因はあるが、その事だけではなく、プロダンス界が分裂し、三団体がそれぞれの団体で活動していることに根本的な原因があることを、改めて再確認させられた。ダンスの普及活動も、ダンスを通じた社会貢献も、また、かつて日本人競技選手が世界の檜舞台で活躍していたように、現在の競技選手達が世界で活躍できないのは、その全てのことが、ダンス界分裂という不整合のために、上手くいっていないことが改めて確認された。

話し合いの進行につれて、現状を変えて、ふたたび世界に冠たる日本ダンス界再生のための、方向性、目的、手段が浮かび上がってきた。子供達が競技ダンスにあこがれ、自ら進んでダンスを始められる環境、成人してもダンスを楽しめる環境、シニア世代になってもダンスを通して健康寿命を延ばし、いつまでも若く美しく生活出来る環境。それらのものを整えるために、現在、3つに分裂しているプロダンスの団体が NDCJ の下に一本化を図る。今まで各団体で小さな規模で開催されていたダンス競技会を統一し、そこに今まででは考えられないような、メジャーなスポーツに匹敵する高額賞金、ダンスに相応しい競技会会場、多くの選手が一堂に会しての競い合いの中から生まれる、日本を代表するスターの出現、それらの事によりメディアを巻き込んだ社会的認知度の向上を目指していく。

具体的には、NDCJ の名のもとに、従来、各団体の中で行なわれていた、オープンダンス選手権大会は NDCJ にて開催していくこと。また、選手が段階を追って上達する事を目的として行なわれ

ているB級、C級、D級等のクラス戦は、従来通り各団体の中で行なっていくこと。このことにより今まで、各団体の分裂により分散していた、人的資源、資金も集中することになり、日本ダンス界のV字回復に繋がる。以上のことが6人の元全日本チャンピオンの間で方向性が出され、その後行われたNDCJ管理委員会にて各団体の代表とともに話し合いが行われ、合意に至った。更に今後は、各団体から20名ずつが集まった会議を開催して、具体的なことを決定していく予定。日本ダンス界がふたたび一つになり、かつて持っていた力をふたたび取り戻す日もすぐそこまで迫った。

発言内容：

中川勲議長によってこの会の趣旨の説明がありました。

1. 中川勲：日本ダンス界を事実上牽引している元全日本チャンピオンの方々にお集まりいただき、現在日本ダンス界が低迷の一途をたどっている中で、日本ダンス界を盛り返し、さらなる発展を目指すために、皆様と十分な話し合いを持ちたいと思います。皆様には忌憚のない意見を述べていただきたいと思います。多くのダンス教室が閉鎖に追い込まれている中で、個人での努力には限界があり、ダンス業界全体で取り組まなければ解決のできない問題があります。なぜこのような状況になったのか、そして今後何をすれば発展をしていけるのか。それを話し合いたいと思います。
2. 鳥居弘忠：いろいろな事情があると思うが、統一全日本を筆頭に、NDCJ主催競技会を増やして、各団体が歩み寄っていく。プロ選手は歩み寄っている。選手は勝手にやっていく状況になるのではないか。自分は財団から除名という処分を受けた。東部と西部は一緒に活動していくことを決めた。昨日のジ・オープンダンス競技会は大成功だった。盛況だった。東部、西部の選手は、インターをボイコットして、昨日の競技会に出場した。
3. 中川勲：その状況だと、選手が何を求めているか既に明らかである。日本ダンス界の分裂は、政治的、経済的な問題を招いている。
4. 鳥居弘忠：いろいろな理由がらと思う。
5. 中川勲：今のダンス界の悪い状況は何から起きているかを考えたい。
6. 桜本和夫：ダンスの営業には波がある、ダンスの世界には波がある。都会はいいかもしれないが、地方は、ソーシャルダンスを教えなければ、滅びてしまう。また、ダンス教師の高齢化も進んでいる。都会は学連からダンス教師になる人間もいる。
7. 鳥居弘忠：この不景気の中で、高いものもどんどん売れている。上を狙うか、下を狙うかどちらかに別れている。学連出身者が魅力を感じてプロになる環境を取り戻さなければならない。
8. 鳥居遥子：競技ダンスに限って言えば、ダンス界の世界情勢をある団体はわかっていない。それが原因でいろいろな争いが起きている。
9. 中川勲：今日は、団体のことを話す場ではない。
10. 石原久嗣：JNCPDと比べると、NDCJは違う組織になったと感じる。右肩下がりの情勢を変えるには、アマチュアとのシェイクハンドが唯一の方法と考えていたが、少し違っていたと思う。現実にその結果が出始めている。来年度スーパージャパンは東京インターと共催との情報があったが、また変わった。今、JBDFの状態を見てJDSFは引いていると思う。JBDFとJDSFが組んでやっていくことを考えていたが、それは誤りであった。右肩下がりの状態を変えるにはプロが一つの方向に向かうべきだと思う。
11. 鳥居弘忠：ゆっくりではなく、何故今やらないのか。
12. 石原久嗣：それぞれの団体の持ちクラスの問題がある。JNCPDは内輪の話、内輪もめしかしていなかった。今後はNDCJのニュースを発信していくべきである。

- 1 3. 中川勲：石原先生は「プロ一本化に賛成ですか」。
- 1 4. 石原久嗣：賛成です。
- 1 5. 中川勲：ここで話合ったことを NDCJ の管理委員会でも話合い、更にはそれぞれの団体から 20 名ずつ集まりそこで話合いをしていきたい。
- 1 6. 中川勲：仮に一本化に向かって動くとしたら、オープン戦をはじめに NDCJ で行い、さらに将来、クラス戦も行いたい。
- 1 7. 石原久嗣：各団体が分かれた理由、各団体の存在理由、を一般会員にも聞いて意見を吸い上げて、進めていきたい。
- 1 8. 中川勲：トップリーダーが方向を決めていくべきだと思う。
- 1 9. 石原久嗣：外部理事も入れて話したい。ダンス界を理解している人であることが大切。
- 2 0. 中川勲：方向性として、一本化に向けて協力していきたい。
- 2 1. 石原久嗣：今回は個人の立場で出席している。東部日本ダンス連盟の会長でいる限り、その方向で行く。
- 2 2. 中川勲：ここで方向性を決めて動きたい。
- 2 3. 天野博文：方向性は出切っている。プロがリーダーシップを取れる組織にしたい。過去に戻って日競連の形に戻れるのか検討したい。時間が経つと、それぞれの団体の思惑が働き、また元に戻ってしまう気がする。ここ 1, 2 年で新日競連のようなものを作りたい。
- 2 4. 中川勲：方法論として、アジアオープン、ギャラクシー等、各団体の全てのオープン戦を NDCJ にて行っていくのはどうか。それによって、ダンス界一本化に近づく。
- 2 5. 天野博文：毛塚先生も同じ方向性の考えだと思う。
- 2 6. 鳥居遙子：新日競連を作るには又時間がかかるから NDCJ にて行ないたい。
- 2 7. 中川勲：梶岡先生も日教連の動きをしている。趣旨は同じだと思う。
- 2 8. 天野博文：NDCJ に東部日本ダンス連盟も入ってもらわないと現実的には形にならないと思う。
- 2 9. 中川勲：9 月 9 日に、石原久嗣氏と桜本氏と話をし、東部は WDC で行くことを確認した。
- 3 0. 鳥居遙子：現在、JBDC に入らないと WDC ライセンスが手に入らない。
- 3 1. 石原久嗣：現状は対財団との戦争の真最中。NDCJ については反対ではないが、本部が東部を訴える裁判があるかも知れないので、そちらに専念したい。昔の JBDF は WDC に向いていなかった。今後は堀口史郎氏を東部の代表として送る。
- 3 2. 中川勲：堀口史郎に全権限を与えていると考えていいのか。
- 3 3. 石原久嗣：はい。
- 3 4. 鳥居弘忠：昨日、JBDF(JDSF)側に行く人間が多数いたが、又戻ってくると言っている人間が多数いた。
- 3 5. 石原久嗣：昨日は東部に残るかもしれないので、両方の人間が入っていた。残る可能性を考えてのことです。本部についていく人間は減っている。本部主催の静岡で行なわれる全日本、東部のクラス戦を審査したときにはっきりすると思う。選手は 10 名以下、役員も少ないと思う。反 NDCJ の人も、戻りたがっている人が多数いた。政治を抜きに、一本化に向かって動く。
- 3 6. 桜本和夫：選手が喜んで出場する競技会を NDC で開催して、スターを作る目標を持ちたい。選手が実力以上の結果が出せる競技会を開催して欲しい。選手が世界で戦う時に、それを助けてあげられるようにしたい。
- 3 7. 鳥居遙子：NDCJ からファイナリストを作り、世界に送りたい。
- 3 8. 鳥居弘忠：マンネリ化しているからいけない。大阪でも勝手に客が来ている。意外性が欲

- しい。ダンス界がバラバラになっていることも良くない。
39. 中川勲：海外選手、海外コーチが日本のダンス界からお金をどんどん吸い上げて行ってしまう。日本のダンス界が一本化すれば外国人コーチも外国人選手も NDCJ でコントロールできる。多少の政治力も必要である。日本の選手にも稼ぐ機会をたくさん与えていかなければならない。何故、外国の選手が日本円を稼ぎ、日本人選手は稼げない状況は良くない。あらゆる事がダンス界を一本化をする事により好転していく。
40. 鳥居遥子：昔の産経戦は満席だった。ダンス人口は増えているのに、観客動員数は減っている。各団体で別れて競技会を開催しているから、メディアにも相手にされていないと思う。
41. 中川勲：メディアにダンスが取り上げられるには何が必要か、それはメジャーな競技になる事が必要である。業界が分裂している状態では、メディアも政治家もスポンサーも、ダンス界には見向きもしない。
42. 鳥居弘忠：分裂しては、メディアは見向きもしてくれない。
43. 中川勲：子供達にダンスを教えるのではなく、子供達が自ら進んで、ダンスを習えるような環境を作るには、メディアの注目が重要。その為には、賞金王の方向に持っていく事が重要だと思う。プロが賞金を稼げなければ何の魅力もない。メディアも関心を持たず、ニュースにもならない。このためには一本化が必要。業界の一本化ができれば、賞金王の方向性で行けると思う。もし、皆さんがここで合意すれば、可能。オリンピックは今後スポーツゲームとアーツゲームに分れ、ダンスはアーツゲームの中では可能性がある。
44. 中川勲：もうみんな若くない。後何年生きられるかわからない。今やらなければならない。
45. 鳥居弘忠：我々の時代に分裂をしたのだから、自分たちの時にダンス界統一を図りたい。
46. 中川勲：賞金王でいけば、親が、子供にダンスを勧める。もっと子供があこがれる、かっこいい衣装、子供の耳に受け入れられる音楽に変えて、メディアのニーズに乗れるようにしたい。世界から一流のデザイナーを招き、新しい衣装を作ってもらうのも良い。
47. 鳥居遥子：スケールが大きすぎて、知らない人に言っても、本気にしないと思う。
48. 中川勲：このようなプロジェクトは、仕掛け人がいて、仕掛けていく。サッカーも K1 も始めは仕掛けていってメジャーになった。
49. 天野博文：毛塚先生も一本化には賛成している。総論賛成、各論反対の状況。
50. 中川勲：オープン戦は NDCJ、クラス戦は各団体にて開催するのはどうか。選手登録は各団体。選手に出場の自由を与える。選手はダブル登録、トリプル登録もできる状態としたい。選手に自由を与えて、解放する事が WDC のポリシー。どの競技会に出場するかは選手の判断に任せる。このことは、ある団体によっては理解はして貰えるが、納得するのは難しいように思える。
51. 鳥居弘忠：統一全日本のような競技会を増やしていきたい。
52. 中川勲：この数ヶ月で「誰が見ても一本化」でなければ意味がない。
53. 天野博文：一緒に開催する統一のような競技会を増やしたい。年間 3 回位この様な競技会を開催して行けばかなり状況は変えると思う。この 20 年間でお金と人の分散を行っていたに過ぎない。武道館で NDCJ が競技会を開催する。さらに新しい会場を探して、NDCJ が競技会を開催。人とお金を集中させ、メディアも含めて、ダンス界統一に向かいたい。「お金と人をいかに集約させるか」が大切だと思う。具体策を今打ち出さないと、何も変わらない。現在の統一全日本も NDCJ で開催している形を取っているが、各団体の持ち回りで開催しているに過ぎない。環境を整える。
54. 中川勲：これだけではメディアは動かないと思う。

55. 天野博文：武道館、飛天、東京ドームで競技会を NDCJ で開催したい。
56. 鳥居弘忠：昔商品運びをした頃には、副賞の数が山積みとなっていて、とても多かった。
57. 鳥居弘忠：西部ではプロアマが流行っている。富豪の奥様が選手を抱え込んでいる。
58. 中川勲：アメリカでは選手をプロアマで稼がせるから、海外からどんどん選手が集まっている。ジョン・キミンズからプロアマのマニュアルを仕入れた。プロアマは将来的には大きな収入源になると思う。
59. 鳥居弘忠：統一プロアマ競技会を開催してはどうか。
60. 中川勲：「メディアを動かすにはどうしたらよいか」しかない。みんなの力を合わせれば実現すると思う。
61. 桜本和夫：とりあえず NDCJ で大きな大会を複数開催して、スターを作りたい。一気に高額賞金の大会は難しいと思う。
62. 中川勲：賞金をどうやって集めるのか。ダンス界が統一しなければ、賞金は集まらない。多額の賞金が出れば、メディアが注目をする。コツコツ 3 団体で競技会を開催していくのも良いか、それでは何も変わらない。
63. 桜本和夫：半年か一年かをかけて、その方向で動きたい。1ヶ月、2ヶ月では出来ない。
64. 中川勲：方向性、目的を決めたい。3 団体の競技会をやりましょうでは、何もならない。一本化は手段であって、目的ではない。目的は競技ダンスを誰をも魅了できるメジャーなものし、魅力あるダンス界にすること。目的を一本化することが大切。3 団体が競技会を行うだけでは、それだけでは、チャンピオンが集まって話し合うことではない。
65. 鳥居弘忠：中川先生が言っているのは、理想、一步一步段階を踏まなければできない。
66. 天野博文：どういうものが「一つ」のなのか。「一つ」の形を示してほしい。
67. 中川勲：例えば、全てのオープン戦を NDCJ で行う。今ある競技会を NDCJ に入れれば簡単にできる。
68. 天野博文：オープン戦はどのぐらいの範囲か。
69. 中川勲：全てのオープン戦は NDCJ にて開催、クラス戦は各団体にて開催。クラス戦は過程だから、どこの団体でやっても良い。オープン戦は一流の競技会だから、世間も認めると思う。その話を夢の話とするのか、現実のものとするのかは、皆さん次第。他のアイデアがあれば是非教えてほしい。良いアイデアであれば自分も賛成します。他にアイデアがないのならこの方法で行ないたい。
70. 天野博文：東部、西部が一番コンセンサスを取ることが大変ではないか。JCF は簡単だと思う。
71. 中川勲：動き始めれば、周りは乗ってくると思う。個人でできる範囲はたかがしれている。みんなの力を合わせればできると思う。我々が目的、方向性を決め、NDCJ 管理委員会で話し合い、更に各団体 20 名ずつの会を開き、具体的なものを決めていけばよい。
72. 鳥居弘忠：東部の人間にこの会に参加してほしい。
73. 天野博文：急激は無理、例えば、2017 年にはオープン戦を一つにするという方向性ではどうか。
74. 中川勲：それでは遅いと思う。
75. 鳥居弘忠：難しいと思うが、今やらなければならない。
76. 中川勲：今はっきりした方向性を出さなければ、今後誰がやるのか？
77. 鳥居弘忠：東部、西部はついてくるか自信がない。
78. 中川勲：各団体、団体内部で争っているのは、誰もついてこない。はっきりした目的があり、

それが良いものであれば、まず選手がついてくる。可能性は皆さんの合意があればいくらでも出てくる。時間をかけず、どんどん進んでいきたい。時間をかけて、行動がないのであれば何の意味もない。

79. 桜本和夫：今日の意見は良い話しだと思う。もう少し時間を掛けて話したい。東部と西部は割れずに、一緒になってNDCJに入りたい。
80. 中川勲：しっかりした目標を持って、そこにみんなが集まるのが良い。
81. 天野博文：もっと集まってもう一度話したい。
82. 桜本和夫：みんなも思っている。
83. 中川勲：いくらでも広がっていく世界に行くために、きっかけが必要。行動を起こさなければ何も起こらない。
84. 鳥居弘忠：このアイデアは最高だと思う。ただ、現実離れしている。
85. 中川勲：ダンス界は限りなく発展していく可能性がある。
86. 天野博文：選手が動くかわからない。今まで100万円単位の話しかなかったので、10億円の話はポカンとしてしまう。
87. 中川勲：ギャップはあると思う。もう一度この6人+ $\alpha$ で集まって継続討議する。
88. 天野博文：もう一度集まった方が良い。
89. 次回会議開催予定：2015年10月19日（月）12：00～14：00